

令和6年度 第3回 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

発達・子育て支援専門部会

日時：令和6年10月15日（火）

午後2時30分から

場所：うじ安心館

3階 大会議室

<次第>

- 1 開会
- 2 検討
 - (1) 専門職による園訪問支援体制について
 - (2) 移行支援シートの統一化について
 - (3) 次年度の研究・研修について
- 3 その他連絡事項
- 4 閉会

<資料>

	ページ
① 「専門職による園訪問支援体制について」の関係資料	… 1
② 「移行支援シートの統一化について」の関係資料	… 5
③ 「次年度の研究・研修について」の関係資料	… 9

令和6年度第2回 発達・子育て支援専門部会 主な意見

(1) 専門職による園訪問支援体制について

(第1回で出た意見についての補足や新たな意見など)

1 相談方法の観点

- (就学前施設と療育施設では互いに子どもの様子を見合い、情報を共有することで、その子どもに対する支援が成立すると考えるため)療育施設で支援するには就学前施設の先生との話合いの内容を踏まえるように、園訪問する際にはあらかじめ就学前施設の先生との話合いが必要
- 複数名で訪問することになるとしても、子どもたちに過度な緊張感を与えないような工夫が必要

2 相談内容の観点

- 就学前施設にいる療育施設に通っていない子どもへの対応も含む就学前施設の先生に対する支援の必要性

3 訪問する専門職の観点

- (第1回意見「子どもの育ちと発達の両方の視点を持っている専門職が必要」に関連して)子どもの育ちに加え、各就学前施設の方針について理解し、教育・保育の観点も踏まえて協働してくれる方
- センターにおいて、専門職とは日頃から専門的な内容について意思疎通を図っておくことが必要
- (第1回意見「就学前施設の先生が療育施設に見に行くこともとても参考になる」に関連して)療育施設では小集団での様子を見ることができ、進路について保護者と話がしやすくなる

4 その他

- 今後、実際に運用していく中で、センターと各就学前施設ですり合わせながら、より良い園訪問支援について検討していくことも必要
- 子どものプライバシーや保護者の了承などクリアすべき課題は多いものの、療育の手法を実際に見て、後で気付いたことを話し合う方法等による療育施設での研修は有効
- 異なる療育施設に属する先生同士による互いの施設の見学の機会の必要性
- 各療育施設における療育の方針や内容についての情報発信が必要

発達・子育て支援専門部会 報告書

部会長：杉本 一久

専門部会まとめ（部会開催：R6.7.1、8.5）

（1）専門職による園訪問支援体制について

昨年度に実施した保健推進課の「園児の発達サポート事業」と保育支援課の「障害児保育指導員による巡回訪問」の現状等についての検討を踏まえ、今年度は支援体制について「相談方法」、「相談内容」、「訪問する専門職」の3つの観点から検討を実施しました。

＜今後に向けて＞

- 定期巡回に加え、別途依頼を受けて相談できる仕組みや就学前施設の希望で訪問ペースを登録できる制度の構築が必要
- センターは、子どもの特性に応じた職種の専門職（療育施設の先生、作業療法士、言語聴覚士など）が円滑に園訪問を行うためのコーディネートの役割を担う
- 専門職は子どもの育ちと発達の両方の視点を持ち、園訪問の際に就学前施設の先生との話し合いを通じて、施設の方針について理解するとともに、教育・保育の観点も踏まえて就学前施設の先生と協働する。具体的には、支援が必要な子ども1人ひとりの育ちを考慮した上で、その子どもにとって興味のあることを手掛かりに、1人ひとりの子どもの育ちに応じた支援の充実を図る

（2）移行支援シートの統一化について

昨年度に実施した令和4年度から統一した様式を活用している公立幼稚園（保育所）での取組についての検討を踏まえ、今年度は公立幼稚園及び小学校における運用上の課題を抽出し、その課題に対する対応策の検討を実施しました。

＜今後に向けて＞

- 移行支援シートは今後の支援の入口となる資料として取り扱い、その詳細については就学前施設と小学校との間で直接情報共有を図る
- 移行支援シートは1年間の成長が見えてくる年度末頃の作成・提出が望ましいものの、7月頃から始まる就学相談の際に、必要に応じて各就学前施設で作成しているその時点の「個別の支援計画」を活用するなど、あらかじめ双方で情報共有を図る
- これらの移行支援シートの有効活用に向けた取組を実施できるよう、センターにおいて周知を図る

参考

- 「令和6年度第1回 発達・子育て支援専門部会 主な意見」資料2
- 「令和6年度第2回 発達・子育て支援専門部会 主な意見」資料3

R7～ センターでの園訪問支援事業について（案）

事業趣旨	全ての子どもがより豊かに園生活が送れるよう各施設を訪問し、園の先生を支援
対象	市内の全ての就学前施設
相談方法	<p>○年数回の定期訪問&（必要に応じて）園から依頼を受けての訪問（以下「随時訪問」という。）を実施</p> <p>○随時訪問の場合の申請方法 京都府・市町村共同電子申請システム等検討中</p> <p>○当日の相談に向けた準備 就学前施設の方針や子どもの特性の理解 ⇒センターのコーディネーター役が調整を図る</p>
相談内容	<p>○定期訪問の場合 「発達・子育て支援（配慮を要する子どもに係る保育士等への支援・その子どもの保護者への対応）」「保幼小連携」「教育・保育の質の向上（教育・保育の内容、園内研修、環境構成）」等に関する少し気になることについての相談</p> <p>○随時訪問の場合 「発達・子育て支援（配慮を要する子どもに係る保育士等へのより専門的な支援）」についての相談</p> <p>※いずれの訪問の場合も子どもに対する発達支援ではなく、保育士等に対する支援 ⇒ 保護者の同意不要</p>
訪問者	<p>○定期訪問の場合 原則、現在センター準備室ほか各課に配置されている職種の専門職など（例：発達相談員、保健師、幼稚園教諭・保育士、障害児保育指導員）</p> <p>○随時訪問の場合 上記職種の専門職&子どもの特性に応じた職種の専門職（例：作業療法士、言語聴覚士など）</p>
事業実施後	<p>○相談内容を踏まえた子どもへの支援</p> <p>○園内での支援方法の共有</p> <p>○継続的な相談の実施</p>
その他	<p>○随時のセンターによる好事例の収集及び支援方法の周知、普及等を目的とした情報発信</p> <p>○事業を実施していく中で、より良い園訪問支援について専門部会等を通じて検討し、改善を図る</p>

園訪問事業（保健推進課事業との比較）

実施主体	（仮称）宇治市乳幼児教育・保育支援センター	宇治市保健推進課
事業名称等	園訪問支援事業	園児の発達サポート事業
事業趣旨	全ての子どもがより豊かに園生活が送れるよう各施設を訪問し、園の先生を支援	幼児期後期に明らかになる発達課題を発見 保護者が相談できる窓口を周知 保護者・園・行政が連携し、就学以降の支援につなげる
対象	市内の全ての就学前施設	市内在住の4歳児クラス子ども 〔療育、発達相談利用者 → × 他市在住 → ×〕
訪問者	○定期訪問の場合 原則、現在センター準備室ほか各課に配置されている職種の専門職など （例：発達相談員、保健師、幼稚園教諭・保育士、障害児保育指導員） ○随時訪問の場合 上記職種の専門職&子どもの特性に応じた職種の専門職 （例：作業療法士、言語聴覚士など）	〔発達相談員 （必要に応じて）保健師、 障害児保育指導員、幼稚園教諭など〕
保護者の申し込み・同意	不要 年数回の定期訪問 & 園から依頼を受けての訪問（随時訪問）	必要 （申込書 兼 個人情報に関する同意書） 園から保護者へ説明 申込みと個人情報提供の同意が必要
事業実施後	○相談内容を踏まえた子どもへの支援 ○園内での支援方法の共有 ○継続的な相談の実施	保健推進課 → 保護者
その他	○随時のセンターによる好事例の収集及び支援方法の周知、普及等を目的とした情報発信 ○事業を実施していく中で、より良い園訪問支援について専門部会等を通じて検討し、改善を図る	再度の園訪問・継続的な発達相談・フォロー教室の案内・他機関の紹介・教育相談の紹介

令和6年度第2回 発達・子育て支援専門部会 主な意見
(2) 移行支援シートの統一化について(課題に対する対応策の検討)

<課題と感ずること>

【渡す側】 公立幼稚園	保護者に対し移行支援シートの活用を提案するタイミングが難しい 移行支援シートは1枚ものになっているため、それだけでは子どもの情報を伝えきれない
【受け取る側】 小学校	シートを受け取るタイミングが難しい 年度末ではなく、7月頃から始まる就学相談の際にあらかじめ子どもの情報が分かれば相談を進めやすくなる 「入学当初予想される姿」欄に記入されている姿とは異なる場合がある (第2回専門部会資料P4「課題と感ずること」より抜粋)

1 課題 に対する対応策

個人懇談などの機会を通じ「就学にあたり心配なことを小学校の先生に前もって知っておいてもらう」ことのメリットを伝える

2 課題 に対する対応策

移行支援シートは今後の支援の入口となる資料として取り扱い、シートの詳細については直接、就学前施設と小学校の打合せすることで情報共有を図る

3 課題 に対する対応策

(就学相談前後の動きは下記4のとおり柔軟に対応しながら)年長児1年間の子どもの成長が見えてくる2~3月頃の作成・提出のスケジュールだけは確定しておく

4 課題 に対する対応策

(保護者の同意取得が課題ではあるものの)移行支援シートに代わり、各就学前施設で作成しているその時点の「個別の支援計画」などの活用を図る
就学相談前にあらかじめ小学校の先生が就学前施設を訪問し、子どもの様子を見たり、園の先生からその子どもの話を聞く

5 課題 に対する対応策

子どもの様子をより理解するために、小学校において保護者に対し就学相談などの機会を通じて「1度相談に来ていただくと、継続的に相談を受けることができる」「担任だけでなく学校全体で共通認識を持って対応できる」ことのメリットを伝える



これらの対応策について、センターにおいて周知を図り、移行支援シートの有効活用に向けて取組を実施

取扱注意 令和 年度 ○○園(所)移行支援シート(案) 年 月 日 作成者()

ふりがな	性別	学年	担任名	支援(指導形態)	教育相談等
氏名		3歳			
生年月日	年 月 日生	4歳			
生育歴・入園までの様子					
小学校で見えにくい子どもの状況や育ちを知ることにつながり、指導・支援に活かすことができる【小学校意見】			入学当初予想される姿		
本人の思い(楽しみ・不安に思っていること)			保護者の願い		
言葉で表せる子どももいれば、小学校のイメージがつかっていない子どももいるので、保護者と話をして作成したり、幼小連携で小学校に行く際に楽しみにしていることや、実際に楽しんでいたことなどを記入している【公立幼稚園意見】			子どもの障害に深く関わりのある部分のため、小学校に大切に引き継いでいきたい重要な項目。子どもの背景にある保護者の思いが思いが引き継がれるように記入している【公立幼稚園意見】		
本人の長所・得意なこと			診断等		
(小学校に対し)大切にしてほしい、理解してほしいという願いを込めて記入している【公立幼稚園意見】			医療 福祉 その他		
就学前施設における長期目標			他機関との連携		
※ ……これまでの専門部会での意見を反映			有効だと思われる手立て及び就学前施設での様子		
<今後の予定> ○公立幼稚園・保育所で使用しているこの様式で統一を図り、令和8年度入学の子どもを対象に全市的に統一様式を使用 ○統一様式の使用に伴い、次年度に移行支援シートの記入方法についての研修を実施予定			「園で本人が困っていることについて、こんなことをしたらうまくいった」旨を記入【公立幼稚園意見】		

この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日

保護者署名

移行支援シートの記入の仕方

取扱注意 令和 年度 ○○園(所) 移行支援シート(案) 年 月 日 作成者()

ふりがな	性別	学年	担任名	支援(指導形態)	教育相談等									
氏名	○ ○ ○ ○ ○	3歳	○ ○ ○ ○	園内で行った指導形態について記入します。 例: 加配対応(3:1)	保健推進課の発達相談・通級指導教室の教育相談を行った場合記入します。 (○月○日 保健推進課) (○月○日 ○○小学校 通級指導教室)									
生年月日	年 月 日生	4歳	△ △ △ △											
		5歳	□ □ □ □											
生育歴・入園までの様子														
<p>乳児期の様子や行動の特徴は、本児を理解する上で重要な情報となることとがあります。指導や支援に必要だと思われる事柄について、保護者から聞き取り、わかる範囲で記入します。</p>														
<p>本人の思い(楽しみ・不安に思っていること)</p>														
<p>適切な指導、支援を考ええる際、保護者の意向を踏まえることは大切です。保護者が本児の将来(6年後)について、どんな願いをもっているのか十分に聞き取り、記入します。また、現在の本人の思いも聞き取って記入します。</p>														
本人の長所・得意なこと			他機関との連携											
<p>支援に活かせるという視点で、本人の長所、興味、関心のあることや得意なこと等を記入します。支援内容の検討の際に参考となりそうな事柄を挙げます。</p>			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">医療</td> <td colspan="2">5歳児で継続して連携している、医療機関や福祉機関で受けた療育や支援、相談があれば、記入します。*投薬の有無の記入可能</td> </tr> <tr> <td>福祉</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			医療	5歳児で継続して連携している、医療機関や福祉機関で受けた療育や支援、相談があれば、記入します。*投薬の有無の記入可能		福祉			その他		
医療	5歳児で継続して連携している、医療機関や福祉機関で受けた療育や支援、相談があれば、記入します。*投薬の有無の記入可能													
福祉														
その他														
就学前施設における長期目標			有効だと思われる手立て及び就学前施設での様子											
<p>5歳児での目標を記入します。 ※幼児の実態に合わせて、豊かな生活を送るために必要なこと、困難を改善・克服するために必要なことという視点で検討して設定したものを。 ※主語は幼児本人と考えて記述する。</p>														
<p>行ってきた支援内容・方法とその支援に対する幼児の様子について記入します。</p>														

この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日
保護者署名

記入例

取扱注意 **令和 年度** **〇〇園(所)移行支援シート(案)** 令和〇年〇月〇日 作成者(〇〇 〇〇)

ふりがな	氏名	生年月日	性別	学年	担任名	支援(指導形態)	教育相談等
	〇〇〇〇	年 月 日生	○	3歳	〇〇〇〇	加配対応(3:1)	
				4歳	△△△△	加配対応(3:1)	
				5歳	□□□□	加配対応(3:1)	〇月〇日 〇〇小学校 通級指導教室
生育歴・入園までの様子							
・低出生体重児 2000g ・首のすわり4か月、歩き始め1歳0か月、言葉の言い始め1歳2か月 ・1歳8か月健診で視線の合いにくさから保健推進課の発達相談を継続して受け、療育を勧められた。 ・自分のしたいことができないうと、痙攣を起こし、切り替えに時間を要することが多かった。							
本人の思い(楽しみ・不安に思っていること)							
(楽しみ) ・勉強すること (不安) ・朝早く起きること							
本人の長所・得意なこと							
・電車が好きで、車掌になりきって駅名を言ったり、様々な電車の名前を知っていたりする。 ・迷路のような線路や電車などの絵を描くことを好み、集中して取り組む。 ・当番活動が好きで、順番が来るのを楽しみにしたり、意欲的に取り組んだりする。							
診断等				他機関との連携			
・自閉スペクトラム症 (令和〇年〇月〇〇病院△△医師)				医療	・〇〇病院にて定期的に診察・相談を受けている。 (担当医:〇〇医師 〇歳～) ・〇〇療育園通園(〇歳～卒園まで 週〇回)		
				福祉			
				その他			
就学前施設における長期目標				有効だと思われる手立て及び就学前施設での様子			
・好きな遊びを通して、自ら友達と関わる。 ・決められた時間内に身の回りの始末を終える。				・自分で作った電車を走らせて一人で遊ぶことが多かったため、園庭に電車ごっこの場を設けるなどしてぎっかけ作りをすることで、友達と同じ場で遊ぶ姿が見られた。遊びの中で順番を代われない場面もあったが、教師が友達の思いを知らせて、時には代わられることもあった。 ・自分のしたいことがあると切り替えに時間が掛かって身の回りの始末が出来ず、教師に頼ろうとする姿があった。目標の時間を知らせ、視覚で分かるように示し、時間内に出来た時は好きな電車のシールを貼れるようにしたことと、自ら意欲をもって始末をしようとする姿が見られるようになってきた。			

この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日
 保護者署名

次年度の研究・研修について（発達・子育て支援関係）

○研修のねらい・ポイント・令和5年度の研修の様子

⇒次ページ参照

○令和6年度の研修

月日	テーマ・形式	講師	人数
6/6	保護者の気持ちに寄り添う相談 （グループワーク）	保健推進課発達相談員	26
7/16	宇治市のフォローシステムについて （講演・グループワーク）	保健推進課発達相談員	24
8/23	5歳頃の子どもの発達と集団づくり （講演）	服部敬子 京都府立大学教授	31

○今後希望する研究テーマ

テーマ	人数
保護者対応・支援について	9
子どもの育ちや対応（イヤイヤ期や反抗期なども含む）	8
支援が必要な子どもへの支援の方法・集団生活について	4
切れ目のない支援のための連携・子どもの自己肯定感の高め方	3
昔の子どもと現在の子どもの特性の違い（苦手なこと・得意なこと）	2
支援を要する子どもも含めた学級づくり	1

⇒研究事業の形式の例とイメージについては次々ページ参照

○今後希望する研修テーマ

テーマ	人数
保護者支援・保護者対応（つなげ方・基準等）	11
支援を要する子どもへの関わり方	7
インクルーシブ教育・園での配慮の仕方・学級運営	4
発達支援の実践的な内容（ロールプレイを通じた学び合い）	3
療育施設について知りたい・行きたい、ケース会議・ケース検討	
子どもの発達について	2
グレーゾーンの子どものことについて	1
発達相談等の専門的なシステムを理解できる研修	

○専門部会での検討の中で浮かび上がった研修テーマ

- ・療育の手法を実際に見て、後で気付いたことを話し合う方法等による療育施設での研修
- ・移行支援シートの記入方法についての研修

上記のアンケート・意見をもとに、11月頃に開催する「研究・研修専門部会」の場で更なる検討を実施し、次年度の研究・研修テーマに反映

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修 年間計画 (案)

1. 研修のねらい

民間保育園・認定こども園、私立幼稚園、公立就学前施設(保育所・幼稚園)、小学校、療育施設等が施設類型を越えて、子どもたちの状況や課題を共有し、連携・協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域との連携を推進し、子育てや家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を目指す。

2. 研修のポイント

- ・施設類型を越えた連携・協働の基礎となる顔の見える関係の構築「対面研修・グループワーク」
- ・非認知能力育成、保護者対応力向上、人材育成・組織マネジメント力向上講座の継続実施
- ・子どもの育ちと学びをつなぐための実践研修「公開保育・公開授業」

(令和5年度の研修の様子)



保幼小合同研修講座



エピソード研修



人材育成ワークショップ



発達・子育てワークショップ



乳幼児教育・保育に関する研究事業の形式の例とイメージ

実施自治体	京都市：子どもの心の育ち、保幼小連携・接続など 大阪市：保育実践、特別支援教育・保育など	伊丹市：保育環境、遊び込む子どもの育成など 堺市：人と関わる力、学びに向かう力など	宇治市：架け橋期のカリキュラム作成
形式	個人チーム型	施設単独型	施設連携型
イメージ	<p>○施設から推薦された個人がチームを組んで研究</p> <p>保育所 ↓ 幼稚園 ↓ 小学校 ↓ 個人</p> <p>個人 ↓ 個人 ↓ 個人</p> <p>年数回の研究会を開催して研究を行う</p> <p>センター</p>	<p>○施設連携して連携強化したい分野を研究</p> <p>就学前施設 ↔ 小学校</p> <p>連携する複数施設を指定し、連携して研究を行う</p> <p>センター</p>	
全体への還元・普及方法例	<p>○成果物の作成 (架け橋期のカリキュラム、移行支援シート作成の手引き、連携の手引きなど)</p> <p>○協働研修会での研究発表</p>	<p>○成果物の作成 (研究冊子など)</p> <p>○協働研修会での公開保育、研究発表など</p>	<p>○成果物の作成 (架け橋期のカリキュラム、連携の手引きなど)</p> <p>○協働研修会での保育・授業の公開、研究発表</p>
具体例	<p>教育研究員制度 乳幼児教育・保育推進協議会 (専門部会)</p>	<p>研究指定校・全日本私立幼稚園研究機構 (E0EQ) など</p>	<p>府：架け橋期のカリキュラムコンサルテーション事業</p>